● 特集2：つくばアートフィールド ●

漫画の描ける普通の人

Artist:

大上 恵司
OHGAMI Keiji
筑波大学芸術専門学群
構成専攻ビジュアルデザイン領域 4 年

Writer:

井上 祐里
INOUE Yuri
筑波大学芸術専門学群
芸術学専攻 2 年

● 卒業制作「モナさんと楽しい美術」表紙

「4 コマ漫画でも描き下ろそうか？」取材中、そんな提案をしてくださった大上恵司さん。構成専攻でビジュアルデザインを学ぶ 4 年生である。大上さんは大学に入学したときから授業やサークルで漫画を描き続けており、卒業制作では美術史に関する漫画を制作するという。

俺の方ができる

大上さんが絵を描き始めるきっかけとなったのが、高校の学園祭のポスターだそうだ。当時流行っていたアニメの絵を見て、「俺でもこのくらいの絵描けるよ」とポスター制作を引き受けた。しかし実際は全然描けなかった。自分の絵のクオリティが低いことが気にいらず、資料を集めてとにかく描き続けたらしい。「絵の質を高めるためにやむを得ず技術を身に付けたんだ。」

漫画を描き始めたのは大学に入学してから。もともとアニメや漫画が好きだったが、いつの頃からか漫画を読み終えると空白が残るような気持ちになったそうだ。そして読むだけでは物足りなくなり、自分でも物語を生み出すことになったという。「でもほんとに最初は、小学生のときに隣の席の子が漫画を描いていたのを見て、『俺の方ができる』と思ったことがきっかけかも」と笑いながら言った。

価値のあるもの

大上さんが卒業制作で手掛けるのは、冒頭で述べたように、美術史を題材とした漫画である。美術史を大学の授業で学び、授業の内容を漫画にしたら楽しいのでは、と考えたのがきっかけだそうだ。タイトルは『モナさんと楽しい美術』。モナさん、歌さん、ロコ子さんという可愛らしい女の子 3 人と一緒に、ルネサンス美術、浮世絵について学ぶ漫画である。

美術史について、図版を用い詳しく説明されているが、所々にギャグが含まれ、思わず笑ってしまう。ギャグと解説のバランスがよく、堅く難しくなりすぎず、かといってふざけすぎてもおらず、読みやすい内容である。

美術史を題材としたのは価値のあるものを作りたかったから。「本当は可愛い女の子がゆるく喋るだけの漫画でもよかったんだけど、大学の研究成果として発表する意味を背景にもって初めて卒業制作になるから、可愛いだけじゃだめだと思ったんだ」。大上さんは春から教員になることが決まった。それも含め、今の自分の立場だからこそできる価値を求めたそうだ。

意外な主人公

大上さんの漫画に出てくる可愛い女の子たち。女の子を可愛く描く秘訣は？と尋ねると、「好きなように、直感的に描いてるかな。可愛くなるまで何回も描き直すんだ」。可愛いキャラを1人つくってそれを主人公にするのではなく、色々なキャラをつくり、特徴をある程度固めた上でシチュエーションをつくるというやり方をとっているそうだ。描いているうちに徐々にイメージが固まっていくのが楽しみのようだ。

今回の作品のタイトルの『モナさんと楽しい美術』。3 人の中で一番台詞が少なく、主人公らしくないように思うモナさんがタイトルである。「3 人の誰が主人公というわけではないけど、1 番主人公らしくない人が実は主人公っていう意外性を持たせる方がおもしろいかなぁと思って。」

アーティストではなく

「自分はアーティストではないと思うんだ。」と言う大上さん。「作品は知られたいけど、自分の存在は知られたくない」と考えているそうだ。作品と自分は切り離したいのだという。架空の世界、架空の人格が作品の中にあって、自分も一緒に作品を楽しみたいのだそうだ。自分自身を作品に投影するのは重いと感じるという。「頑張って漫画を描いているところは見られたくないんだ。だからアーティストではなくて、強いて言えば『漫画の描ける普通の人』なのかな。」

● 卒業制作「モナさんと楽しい美術」より